

## 創業当初から一環した デザインへのこだわり

創業者（長原實）は、当社創業以前に海外への派遣研修で3年間、家具製造の本流であるヨーロッパで、ものづくりを実践的に学び、休日にはヨーロッパ各地の美術館などを巡ることで文化や芸術に触れました。

各地を巡る中で、オランダハーグの港で、北海道産木材が山積みされているのを見たこと、そして、その北海道産木材にデザインが施され北欧家具として付加価値をつけて販売されていることに衝撃を受けたと聞いています。

こうした経験から、創業当時（53年前）からデザイン開発が企業を中心にあり、渡辺相談役も私自身（藤田会長）もデザインを勉強してきたので、デザインを常に意識した経営をしてきており、デザインは当社の理念にも入っていると云えます。



代表取締役会長 藤田 哲也 氏



（左）EIGHT（エイト）ダイニングアームチェアーサイドチェアー ONE（ワン）ダイニングラウンドテーブルφ180 デザイン：倉本仁  
（右）KAMUY（カムイ）ダイニングアームチェアー（座張） デザイン：深澤 直人

## 製品開発はデザイナーとともに

現在の当社の開発チームは20名弱で構成されています。インハウスデザイナーという立場の社員はいません。当社の特徴として、製品開発の最初から最後まで、「開発会議」には経営トップ（会長、社長）や幹部が、必ず参加して行われます。経営者会議の次に重要な会議が「開発会議」であり、当社にとって一番楽しい会議とも言えます。

デザイナーと仕事をする際には、当社の開発理念（どのマーケットに、どのような価格、どういった機能、座り心地など）を全て共有した上で、協業することが大切と考えています。

理念の共有にはとても時間がかかります。最低でも1年、長い場合は1年半から2年かかることもあります。しかし、デザイナーと一度理念を共有できれば、当社のビジネスの仕方を分かってもらえるので、次からの仕事が早くなります。デザイナーと一緒に開発するという考えのもと、著名なデザイナーに対しても、当社の思いを必ず伝え、議論して、互いに歩み寄り、一緒に作っていくのが当社のスタンスです。

デザイナーを選定する上で、一番大切なポイントは実績です。当社とはつきあいがなくても世界でどう評価されているか。依頼をする前には、デザイナーの過去の作品をできる限り調べるようにしています。当社の依頼を受けても、十分見合うデザインをしてくれるのではという想定をする。若手で経験則が確認できない場合は、デザインそのものを見ることもありますが、当社は世界トップクラスを目指して製品開発を行っているため、デザイナーの力量は重要な戦略と考えています。

## リデザインのタイミング

製品のライフサイクルとして、ピークを超える前にリデザインするのが良いとされています。概ね10年程度です。リデザインの際は、営業や市場の意見を取り入れ、デザイナーの意向も確認を行います。最近では、40年ぶりに機能的な面でのリデザインをする椅子があります。座面の角度を数度調整しますが、それだけで座り心地が大きく変わります。当社の製品は、芸術品ではなく工業製品なので、時代に合わせて常に良くしていく責任があります。完成形は決まっていなくて考えていますので、細かいリデザインは常に行っています。



ラベンダー ダイニングアームチェア デザイン:中村 昇

## 若手デザイナーへのアドバイス

日本人の若手デザイナーは圧倒的にPR力が不足していると思います。デザインしたものでなく、デザイナー自身をPRすることが大切です。

自分が一緒に仕事をしたいメーカーがあるのなら、経営者に直接ぶつかるのが一番の近道ですが、日本人は遠慮して、コンタクトをとってくださることはなかなかありません。海外の若手デザイナーは、デザイン画などを直接メールで送ってきます。強い思いでぶつかれば、仕事に繋がらなくても会ってはもらえるのではないのでしょうか。

経営者に会うための準備として、そのメーカーの理念、製品、ターゲット、起用しているデザイナー、不足している領域などを分析することが重要だと思います。自分の思い、デザインだけでぶつかるのではなく、相手の企業を調べ尽くす必要があるのではないのでしょうか。視野・力量を広げるためにも、海外に勉強に行った方が良いでしょう。

## デザイン経営を取り入れるには

デザインを経営に落とし込むのが難しいのはよく分かります。

社長や幹部がデザインの重要性を理解するまで時間がかかります。経営者が認識して、経営戦略にデザインを落とし込むことが大切です。

「デザイン」といわれると分からない、分からないものには経営者は近寄りたくないもの。

デザイン経営を取り入れた企業とそうでない企業との売り上げや社員の定着率の違いが数値で示されています。(※) デザインを重要視して、デザイン責任者を置くなど、デザイン経営を取り入れたらこんなに変わると数字で示すのが、一番理解されやすいと思います。

(※)「日本企業におけるデザイン経営の取組み状況」(公益財団法人日本デザイン振興会 2020年11月25日発表)

### 会社概要

【所在地】 旭川市永山北2条6丁目

【TEL】 0166-47-1188 【FAX】 0166-47-1679

【事業内容】 住宅・オフィス・コントラクト家具、特注家具及びホームファニッシング関連商品、インテリアデザイン・設計・施工等

【従業員数】 278名

【設立年】 1968年

【URL】 <https://www.condehouse.co.jp/>